

西光寺だより

第二三六号 令和三年十二月一日発行

十二月に入り日に日に寒くなってきました。

先月からだんだんと感染者数も減少傾向になってきましたので、色づく紅葉を見ながら胸いっぱい自然の美しさを感じたことであります。

今年もあと一か月。

私たちは昨年引き続きこの一年も制限される生活を続けてきました。

振り返ってみますと、大人は仕事や生活のあり方を変えなければならなくなり、子供たちは学校という場で過ごすことすら困難な時期がありました。

日常とは、当たり前前に流れているものではなく、必ず誰かがそれぞれの場で自分の役割を果たしているからこそ成り立っているんだなど、気付かされた時期でもあります。

毎日の食事ひとつをとっても幾人の方々の日々の努力が重なり合っているでしょう。皆さまもご存じのとおり浄土真宗には食前のことば、食後のことばがございます。

『多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうを恵まれました。深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。』（食前のことば）

『尊いお恵みをおいしくいただき、ますます御恩報謝につとめます。

おかげでごちそうさまでした。』（食後のことば）

日頃使っている「いただきます」「ごちそうさま」の言葉も、私たちが食事を口にするまでに至ったすべての命と手を携えて下さった皆様への感謝の言葉だと改めて感じます。

一年の終わりに自分を支えてくれていてるすべての人、すべてのものに心から感謝したいと思います。

この場をかりまして、この一年本当にありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えください。

●今月のことば●

《海に入れば みな塩味に》

あるご門徒の方のお話であります。毎年夏のお盆の時期に境内のお墓に手を合わされました。ふと帰り際に安威川を見て思われたそうであります。

「沢蟹をよく取りに行った北部のせせらぎから、数十メートルの鉄橋がかかる程に広くなっているこの安威川は、どの辺りで淀川と合流しているのだろうか？」と。

私たち家族も長年住んでいますが、あまり気に留めなかったすぐそばの安威川の行方、お話を聞かされた時は興味津々でありました。

北の勝尾寺川と合流して大きくなった茨木川、それを合流して川幅を拡げた安威川は、やがて神崎川と名を変え、川西市方面から流れてきた猪名川と合流すると川は一挙に二倍に、そして中島川と名を変えて、結局のところ淀川と合流することなく、大阪湾へと流れゆくそうであります。

（八崎さんの春・夏・冬のはなし）

一つの川が合流し大きくなって海へとつながってゆく、そんなことを聞いているうちに正信偈のお言葉が思い浮かぶことであります。

「凡聖逆誘齊回入

如衆水入海一味」

「凡夫（ぼんぶ）も聖者（しようじゃ）も、五逆（ごぎやく）のものも謗法（ほうぼう）のものも、みな本願海に入れば、どの川の水も海に入ると一つの味になるように、等しく救われる」

どんな人も・生き方も・人生も、すべては人それぞれの一つの川である。

その流れ込んでくる川の水を一切分け隔てることなく、自らの中におさめ取り、そして同じ塩味にととのえていく海のはたらきは、まるで阿弥陀さまのようであります。最後はみな等しく同じ海へとつながってゆく。

阿弥陀さまに平等に救われるということ、そしてその阿弥陀さまがおられる浄土にみな行かせていただくということ。その大きな安心を、安威川の流れる水音を聞きながら、一年の終わりに味わったことであります。

◆先月の報告

十一月二十三日（火・祝）西光寺本堂にて報恩講法要を厳修致しました。感染状況もだいぶ落ち着きましたが、まだまだ予断を許すことなく、しっかりと感染対策を行いながら、昼のみの一座とさせていただいたことであります。

また前住職の十三回忌が今年十二月二十四日ということもあり、西光寺講長のご厚意をいただき、報恩講にいられた皆さんでお焼香し俥ばせていただいたことであります。十二年という月日が経ちましたが、皆さまのお力添えがあったからこそ今があるということ、改めて感謝の思いであります。

そして、久しぶりの御講師のご法話。

自己中心的な私たちだからこそ、そんな私たちまでも見越して阿弥陀さまがいつでも見ていてくださっているというお話をうかがい、改めて大切な時間を過ごしたことであります。

こうして親鸞聖人のご法事、今年最後の西光寺での法要を締めくくることが出来ました。ようこそのお参りでございました。



◆十二月・一月の行事◆

・十二月 三十一 日（金）

除夜の鐘

午後十一時五〇分

西光寺鐘楼

※感染対策を行いながら致しますのでご了承下さい。

※ぜんざい・お茶の接待は中止とさせていただきます、

本堂での参拝はどうぞご自由にお参り下さい。

・令和 四年

一月 一日（土）

元旦会法要

午前十時より

西光寺本堂

※感染対策を行いながらのおつとめですが、ご不安な方は

（遠慮下さい）。

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>